

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立児玉高等学校)

目指す学校像	学力の向上と部活動の充実をすすめ、心身ともに健全な人間の育成を通して、地域に愛され信頼される学校
--------	--

重点目標	1 多様な学習支援体制を整備し、基礎学力の向上を図る。 2 保護者・同窓会・地域との連携を強化し、信頼される学校づくりを推進する。 3 部活動を活性化し、自主性・自立性を育成し、基本的な生活習慣と規範意識の向上を図る。 4 キャリア教育を充実させ、生徒の進路希望の実現を図る
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 4 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の基礎学力や学習意欲に差があるため、多様な学習支援体制の整備を図る必要がある。分かりやすい授業を実践し学習習慣を身に付け、目的意識を持って学ぶことのできる生徒を育成し基礎学力の向上を図ることが重要である。	○基礎学力を向上させる	①1学年に少人数学級を実施する ②管理職による授業観察を実施し、分かりやすい授業実践に向けての授業改善を実施する。 ③県の委嘱事業を有効活用する。 ④課題テストを年3回、一般常識テスト年2回実施する。 ⑤漢字検定、英語検定、情報処理検定、ワープロ検定を実施する。	①成績優良者は増加し、成績不振者は減少したか。 ②③アンケート調査の「分かりやすい授業」のポイントが向上したか。 ④課題テスト、一般常識テストの平均点が向上したか。 ⑤各種検定試験の参加者、合格者は増加したか。	・分りやすい授業への改善から基礎学力の向上を目指したが達成には至らなかった。 ①優良者は、H25:2学期9.0% H26:2学期7.0% 減少 ②③生徒アンケート H25:68%, H26:62%で6ポイント減少。 ④一般常識テスト平均点 2年4月:37.1 1月:44.3 向上 ⑤電卓検定合格者 H25:0 H26:8名	B	・様々な学習歴を待った生徒の入学により、基礎学力の定着のために、高校の早い段階で「学び直し」を実施する必要性が出てきた。各教科で取組み方法を考えていく。
2	生徒募集が最大の課題である。本校の成果の出ている様々な取組が保護者や地域に十分届いていない部分があるため、効果的な情報発信の工夫が必要である。また、部活動での地域や近隣中学校との連携は効果が出ているのでさらに交流を進める。	○学校の最新情報を提供し生徒募集を組織的・計画的に実施する	①学校案内を充実させ、HPを随時更新する。 ②スクールバス利用のPR活動、効果的な運用を図る。 ③中学校訪問、学校説明会、体験入学等を充実させ実施する。 ④学校だよりの発行及び県立学校ニュースへ情報を提供する。	①HPの更新は随時行えたか。また、アクセス数は増えたか。 ②スクールバス利用者数の増加。 ③生徒募集普通科、体育コース1.1倍の達成。 ④学校だよりと県立学校ニュースの情報提供が増加したか。	・新規事業を積極的に取入れ学校の情報発信ができた。 ①HPの更新 185回(毎日1回以上)できた。 ②スクールバス乗車数の向上(H25:253名、H26:298名) ③新規で個別相談会を実施 ④近隣自治体に回覧板実施。	B	・今年度実施し好評であった「個別進路相談会」を充実させる。 ・国の新しい規定の下、スクールバス乗車数を増やすことが大きな課題である。
		○保護者、同窓会、地域との連携を強化する	①地域の清掃活動に参加する。 ②PTA・後援会総会時に授業参観を実施する。 ③学校施設開放の推進。	①地域の清掃活動に参加できたか。 ②保護者の授業参観・総会への参加が増えたか。 ③開放日数と地域の関係団体と交流が図れたか。	①保護者と生徒の清掃活動を実施 ②土曜日の授業参観・総会を実施し参加数を増やした。 ③予定通り、格技場・グラウンド開放し関係団体と交流が図れた。	A	・薬物乱用防止教室等の学校行事への保護者・地域住民の参加を増やす工夫をする。
3	基本的な生活習慣の欠如した生徒や多様な問題を抱え中途退学をする生徒が見受けられる。本校の1つの特徴である部活動をさらに活性化し、自主性・自立性を育成し、基本的な生活習慣と規範意識を確立する必要がある。	○部活動の活性化と基本的な生活習慣、規範意識を確立する	①毎月学年集会を実施し、基本的な生活習慣、整容指導等を実施する。 ②定期的に登・下校指導、遅刻指導、校内巡視を実施する。 ③部活動説明会を1学期中に実施する。 ④年2回、保護者、警察と連携した交通安全活動を実施する。	①②服装・頭髪等の校則は守られたか。遅刻・欠席者は減少したか。 ①生徒の問題行動は減少したか。 ①中途退学者は減少したか。 ③部活動説明会に多くの中学生が参加したか。各部活の成績が向上したか。 ②④交通マナーが遵守され、登下校時の交通事故が無かったか。	・部活動は全国大会2部、関東大会4部と結果を出せた。基本的な生活習慣の確立も成果が出ている。 ①中途退学者 H25:38名 H26:12名(2/4現在) ②登・下校、遅刻指導を年間100日以上実施できた。 ③部活動説明会を7月に実施。 ④苦情はあったが、大きな事故はゼロであった。	A	・今までは、生徒指導部の教諭が様々な指導に携わっていたが、今後は、生徒指導以外の教員にも様々な指導に係ってもらい、学校全体での指導に変えていきたい。
4	生徒は、進路について関心が高いが、目的意識が希薄な生徒がいる。学年、進路指導部が連携して早い時期から進路実現に向けての系統的・段階的な指導を実施し、職業観・勤労観を養う必要がある。	○生徒全員の進路実現を図る。	①各種資格検定試験を推進する。 ②就職支援アドバイザーを有効活用する。 ③外部機関との連携を強化する。 ④進路情報誌を発行する。	①各種検定試験の合格者は増えたか。 ②就職支援アドバイザーの来校日数の増加と効果的に活用できたか。 ③ハローワークや本庄市雇用対策協議会と連携し効果的な進路指導が実施できたか。 ④進路情報誌の発行数とその効果。	・きめ細やかな指導によりほぼ全員の進路が決定した。 ①電卓検定合格者 H25:0 H26:8名 ②面接指導や講義等有効に活用できた。 ③外部機関と連携し進路指導に役立てることが出来た。 ④情報誌MEZOを発行し効果的に進路指導が出来た。	A	・来年度実施予定の「1年時の就労体験事業」を主担当者や1学年を中心に実施し、早い時期から勤労観・就労観を養う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を目指し、様々な取組みを実施していることは評価できる。しかし、分りやすい授業のポイントが下がっていることは残念である。教師交互の授業観察等を取入れ研究をして欲しい。 ・「学び直し」は今後大切になってくるので、是非各教科で研究し、本校生徒の実態に合った方法を考えて欲しい。 ・学校のHPを見るが、よく更新されており学校の様子がよく分る。 ・国の制度が変わって、スクールバスの運行が停止された学校もある中、PTA、後援会と連携し、来年度以降も運行が継続できたことは、生徒募集にも係ることなので素晴らしいことだ。 ・多くの中学生が参加した12月の進路個別相談会は時期的にも生徒募集に大きな効果があった。継続して欲しい。 ・学校の講演会等へのPTA・地域住民等への参加は呼びかけを「児玉高校だよりの」や「本庄ケーブルテレビ」等を利用すると良いのでは。 ・県立高校にも係わらず、関東大会4部、全国大会2部出場の活躍は素晴らしい。引き続き各部が切磋琢磨し頑張りたい。 ・生徒の整容指導や基本的な生活習慣の確立の取組みは、粘り強く実施しており大いに評価できる。 ・朝や夕方生徒と会うときちゃんと挨拶してくれる。大変気持ちよい。 ・進路指導主事を中心にきめ細やかな進路指導を実施し今年も高い進路実績を上げたことは評価できる。 ・来年度の就労体験事業は、5日間の就労と聞いている。生徒にとって必ず良い経験になるので、是非企業との連携を密にし、効果的に事業を進めて欲しい。 	